



中国企業の2月の景況感が大幅悪化

— 1～3月期の中国実質GDP成長率の大幅鈍化が確実に —

調査研究部 主席研究員
木下 茂

○中国企業の景況感が急悪化

国家統計局が2月29日に公表した今年2月のPMI（購買担当者景況指数）は製造業が前月比14.3pt悪化の35.7、非製造業が同24.5pt悪化の29.6となった（図表1）。製造業・非製造業の両指数ともリーマンショック直後（08年11月）の水準を下回ったほか、単月での悪化幅も大きなものとなった。新型コロナウイルスの世界経済への悪影響が危惧されているが、中国企業の直近の景況感が急速に悪化していることが改めて確認された。

また、本日（3月2日）、民間版製造業PMI（財新/マークイット）も公表された。こちらは前月比10.8pt悪化の40.3と政府版より悪化の程度はややマイルドなものとなった（図表2、サービス業指数は4日公表予定）。

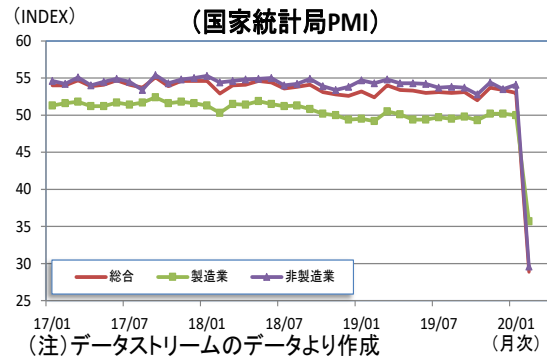
○1～3月期の成長率は大幅鈍化が確実に

今回の景況感指数の悪化で、中国の1～3月期のGDP成長率が大幅に鈍化していることは確実になるとみられる。ここで、製造業・非製造業の両PMIと実質GDP成長率（前年比）の過去の関係に今回のPMIの悪化をあてはめると、1～3月期の実質GDP前年比は1%台まで低下していると試算される（図表3、季調済前期比では3%弱の減少に相当）。

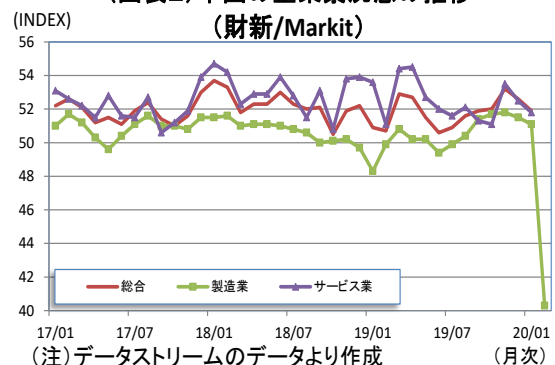
これを前提にすれば、今年1～3月期は世界経済全体も相応の落ち込みが想定される。新型コロナウイルスの終息に手間取れば景気後退に陥る国も出てくるとみられ、今後の各国の政策対応の行方が焦点となってこよう。

（3月2日 記）

（図表1）中国の企業景況感の推移
（国家統計局PMI）



（図表2）中国の企業景況感の推移
（財新/Markit）



（図表3）中国実質GDP成長率の推移とPMIによる推計

